

(1) 高札①

「神流川無賃渡高札」(戸谷家文書 No.8065)



今度神流川定橋相懸

往来無賃二而相渡、若出水二而

橋押流し候節ハ、橋懸置候迄、

無賃渡船之積申付候間、御用

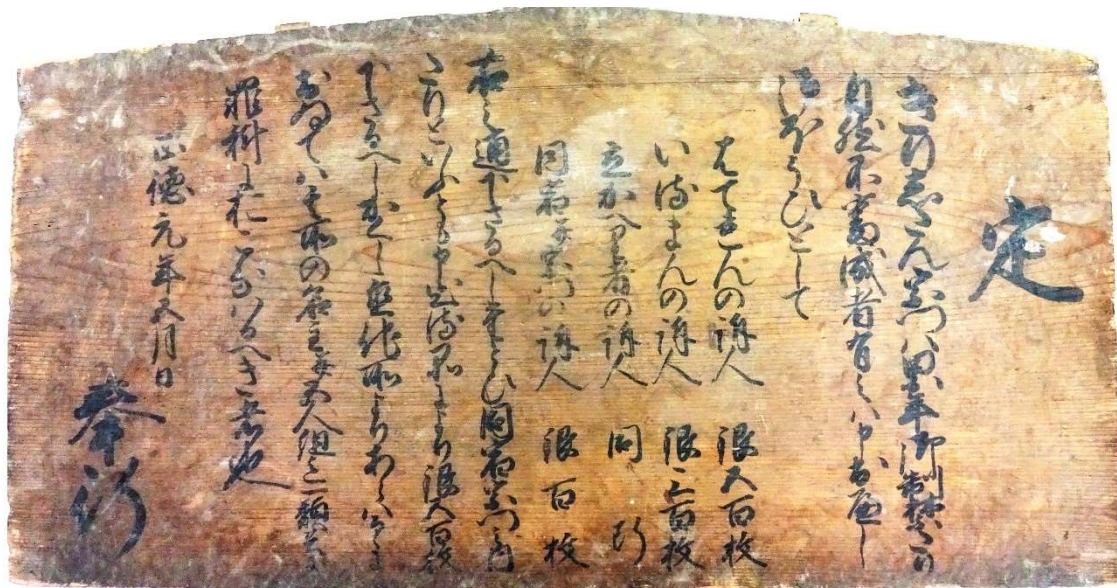
通行之外、諸往来之もの

順々ニ可致渡船者也

丑八月

(裏面) 天明元辛丑年八月

(1) 高札②
「切支丹高札」(小島(栄)家文書 No.1262)



定

きりしたん宗門ハ累年御制禁たり
自然不審成者有之ハ申出へし
御ほうひとして

はてれんの訴人 銀五百枚

いるまんの訴人 銀三百枚

立かへり者の訴人 同断

同宿并宗門の訴人 銀百枚

右之通下さるへし、たとひ同宿宗門之内

たりといふとも、申出る品により銀五百枚

下さるへし、かくし置他所よりあらはるゝに

おゐてハ、其所の名主并五人組迄一類共に

罪科におこなはるへき者也

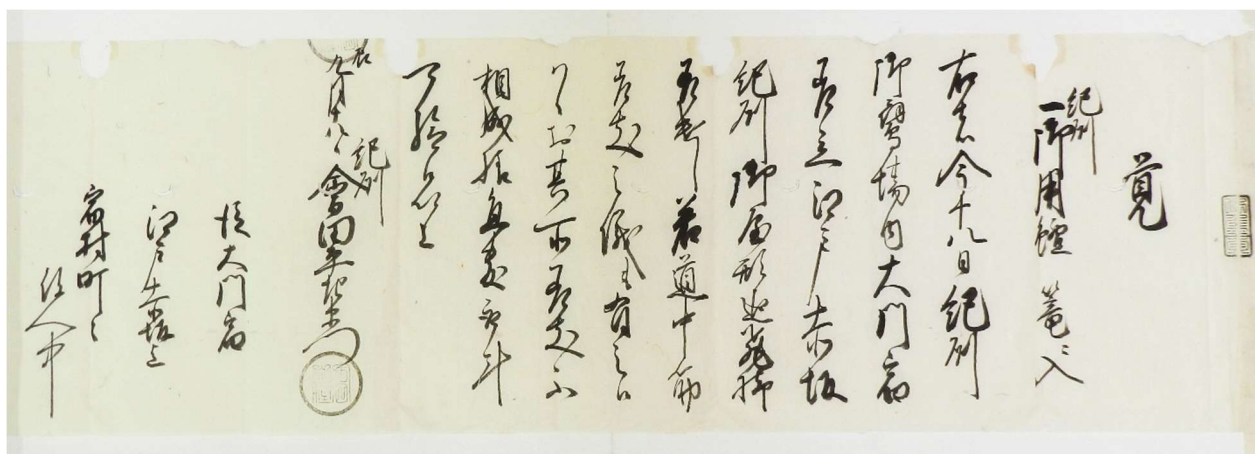
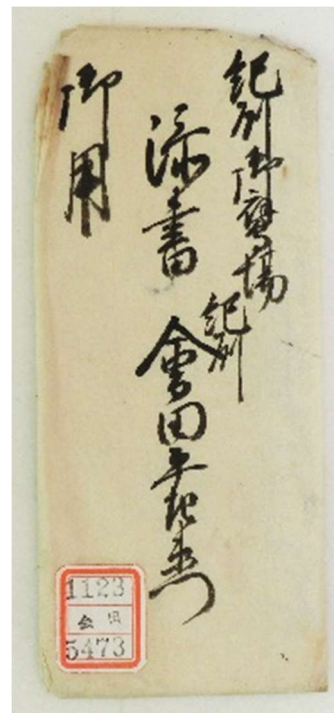
正徳元年五月日

奉行

(裏面) 下総国葛飾郡

米嶋村

(2) 御用鰻
「紀州鷹場御用 (御用鰻)」(会田家文書 No.5473)



(包紙)

「紀州御鷹場

紀州

添書 会田平左衛門

御用

覚

紀州

一御用鰻 籠二入

右者今十八日紀州

御鷹場内大門宿

差立、江戸赤坂

紀州御屋形迄飛脚

差遣候、若道中筋

差支之儀も有之候

ハ、於其所差支不

相成様、宜敷取計

可給候、以上

紀州

辰九月十八日 会田平左衛門印

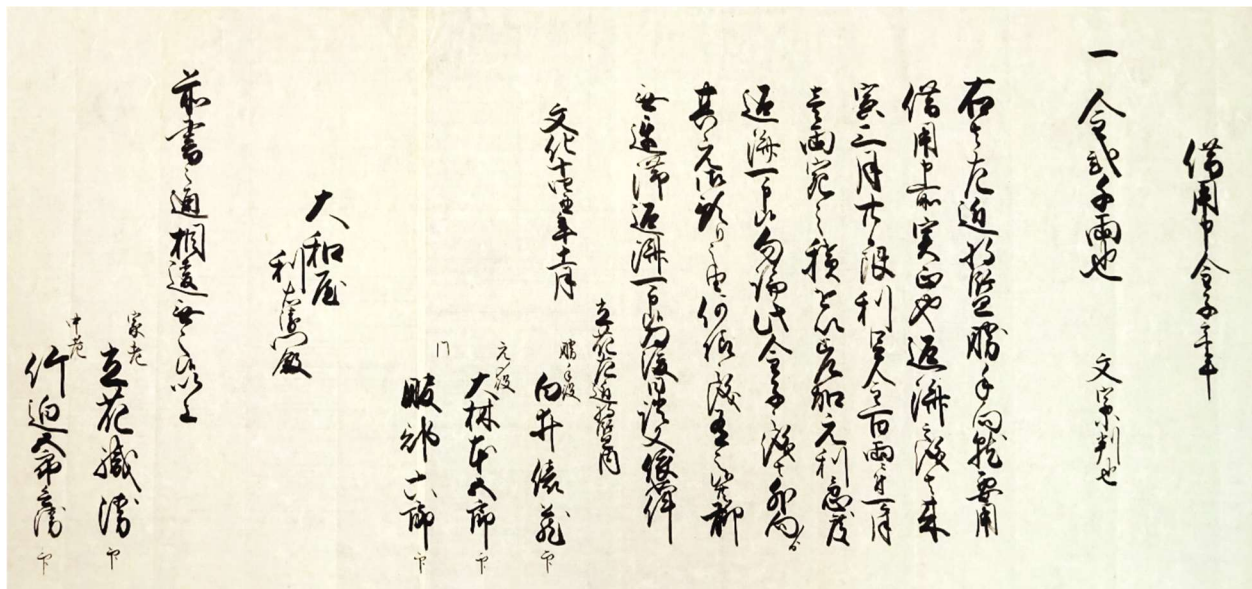
従大門宿

江戸赤坂迄

宿村町々

役人中

(3) 大名の借金証文
「借用申金子之事」(戸谷家文書 No.1020)



借用申金子之事

一金貳千兩也 文字小判也

右者左近將監勝手向就要用

借用申所実正也、返済之儀者、来

寅三月廿日限利足金百兩二付、一ヶ月

壹兩宛之積を以、差加元利息度

返済可申候、勿論此金子之儀者外向方

其元御預り之由、何様之儀有之候共、聊

無遅滞返済可申候、為後日証文依如件

文化十四丑年十一月 立花左近將監内

勝手役 白井俵藏 印

元々役 大林木五郎 印

同 服部六郎 印

大和屋

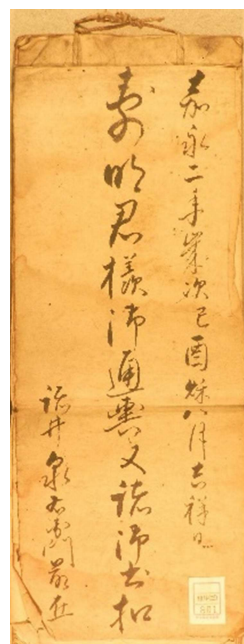
利右衛門殿

前書之通、相違無之候、以上

家老 立花織衛 印

中老 竹迫五郎兵衛 印

(4) 中山道の姫君通行
「寿明君様御通輿又諸御書扣」(諸井(三)家文書 No.801)



「嘉永二年歳次己酉八月吉祥日
寿明君様御通輿又諸御出扣
諸井泉右衛門最在」

宿方御道筋住居之者共

心得方

一宿方并御道筋住居之者共

一同申合、兼而御触之通

御道筋往還并并木敷

地等迄御通り前々日より

掃除念入可申付候事

但シ往還端等ニ木切・竹切・あ

くた等無之様掃除可致事

一並木之枝并ニ往還端立木

之枝、御日傘ニ不障様伐払

之義、兼而御触之通取計方

猶又念入可相改伐払候枝并

枯枝等かゝり候分無之様ニ

可飾付事

一銘々居宅前江手桶ニ水を

入差出可申、尤手桶新規ニ

無之候而も不苦候事

一宿内横道有之処など

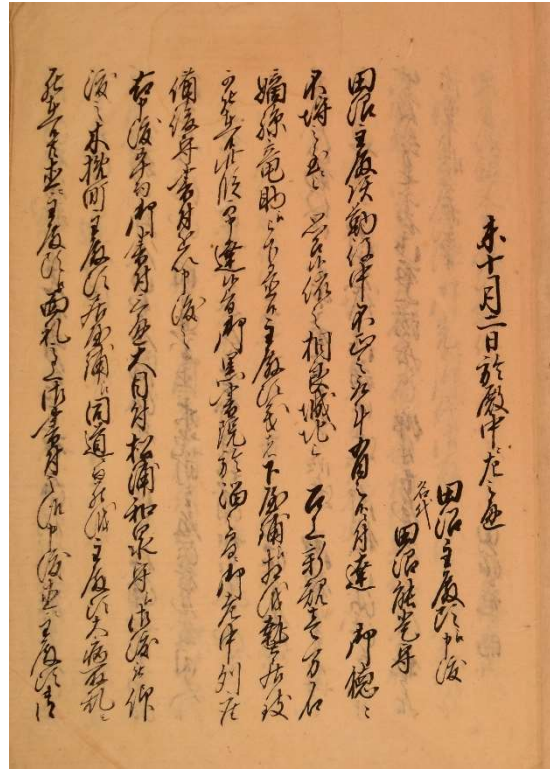
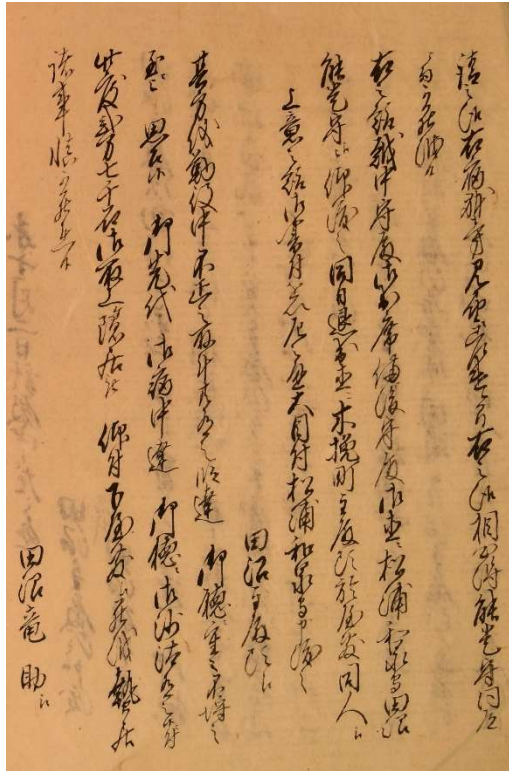
兼而御触之通仕切之義ニ

不及旨兼而御触ニ候得とも、

御当日差掛り在方方罷出(後略)

(5) 田沼意次の失脚

「田沼主殿頭江被 仰渡御書并不正之ヶ條書写」(足立家文書 No.133)



未十月二日於殿中二左之通

田沼主殿頭江申渡

名代 田沼能登守

田沼主殿頭勤役中、不正之取計有之候二付、達 御聴二

不埒之至二被 思召候、依之相良城地被 召上、新規壱万石

嫡孫竜助江被下置候、主殿頭義者、下屋鋪江相越塾居致

可被在候、此段可申達候旨、御黒書院於溜之間二御老中列座

備後守書付を以申渡之

右申渡畢而、御書付三通大目付松浦和泉守江御渡被仰

渡之、木挽町主殿頭居屋鋪江同道二而罷越、主殿頭大病取乱シ

罷在候共、直二主殿頭江面礼之上御書付之趣申渡、直二主殿頭御

請之趣、右病躰秀見届二差遣候間、右之趣相心得能登守同道

二而可罷越候

右之趣、越中守殿御出席、備後守殿御直二、松浦和泉守、田沼

能登守江被 仰渡之、同日退出、直二木挽町主殿頭於屋敷同人江

上意之趣御書付を以、左之通大目付松浦和泉守申渡之

田沼主殿頭江

其方儀、勤役中不正之取計共有之段、達 御聴二、重々不埒之

至二被 思召候、 御先代 御病中達 御聴二、御沙汰有之候二

付、

此度式万七千石御取上ヶ隠居被 仰付、下屋敷江罷越塾居

諸事慎可罷在候

田沼竜助江

(後略)